乗円寺 寺報

2021年　7月
お盆号
寺報から訊く
寺報No30

住職の独り言　～お骨を守ること～

お骨を守ることについてに触れてみたいと思います。人が亡くなると、お骨をお墓などに納骨しますが、最近はさまざまな納骨の形が生まれています。私も教えてもらうことがあり、さまざまな変化に驚かされます。それぞれのお考えがありますので、何が良い悪いという問題ではありませんが、改めてお骨を守るということは、どういうことなのか考えてみたいと思います。

日本でのお墓の歴史はかなり古くからあり、縄文時代にはすでに埋葬の文化があったとされています。土葬から火葬に変わりながらも、亡骸を丁寧な形で納め守ってきたのは、人間だけです。故人への想いを形にしたり、忘れないようにするために、また、その先の先祖に敬いや感謝していくためにお守りする。そういった人間の想いが長い年月で積み重なって、今のお骨を守る形に繋がっています。本山や近くの寺にお骨を分骨する場合もあります。それはより丁重に扱う心の表れで、分骨先でもお参りを絶やさず続けてほしいとの願いと共にある歴史です。

不易流行（ふえきりゅうこう）という言葉があります。いつまでも変化しない本質的なものを大切に、新しい変化も取り入れていくことの意です。お骨を守っていくことも、時代の変化と共に形が変わるのは仕方がないことかもしれませんが、変化させてはいけない本質的なことは、きちんと理解し守っていきたいものです。

葬儀が終わって四十九日を迎え満中陰法要が終わると、お骨をお墓に納めるケースが多くあります。早くお墓に納めないと往生出来ないとの習わしを聞いた方もいらっしゃると思いますが、仏法の教えではありません。浄土真宗では、佛様への真実信心（佛様を信じてお参りすること）が得られたその時に往生が定まるとされます。このことを即得往生（そくとくおうじょう）といい、念仏者は命を終えると直ちに極楽浄土に往生し、いのちをいただくとされます。残ったものは、人が亡くなった日から四十九日の間、その教えと共に、お浄土という場所を心に描きながら、丁寧にお参りする。この期間は亡き人が佛様となって見守る世界を、より心に描く期間とするのが大切ではないかなと思います。四十九日間お骨を傍においてお参りしていくことで、少しずつ悲しみが癒えることもあります。満中陰法要後にお骨を納める習わしは、納骨することで新しく踏み出していく、そんな気持ちからくる、習わしではないかと思います。

お骨を納骨すると、自分の傍から離れたようで寂しく感じる方もいらっしゃいますが、心にお浄土の世界を描いていればきっと寂しさは和らぎ、安心できるようになると思います。秋川雅史さんの「千の風になって」という歌が流行りましたが、歌詞にじっくり注目すると、仏法の教えに通ずるものがあるなと感じます。

今後、お骨をどうしていくか、今あるお墓をどうしていくか、悩まれる方もいて、私もしばしば相談されることがあります。今まで家族が守ってきた形と、後に守っていかれる方が県外にいたり、嫁いだりしていることなどの諸事情が重なっているケースがあります。とても大切な問題だと思いますので、可能な限りご家族や親戚の方と話し合い、納得する形はどういうものかをお考え下さい。お骨をお守りするということは、自分だけの問題ではありません。お骨をお守りするというこは、自分だけの問題ではありません。家族に迷惑をかけたくないから、散骨してほしいとおっしゃる方もおいでますが、残された家族が望んでいないケースもあります。お骨を守る場所は、残されたもの、次の世代が亡き人と、人間のいのちに出会い、佛様が創るお浄土の世界の入り口となります。皆さんと一緒にお参りさせていただいて思うことは、例え、今お参りしていなくても、その方と関係が悪かったとしても、タイミングが来た時に、お参りする時がきます。今はその気持ちが眠っているだけかもしれません。

私は祖父や、祖母のお墓にお参りするとき、挨拶をしながら自然と今の近況を報告している自分がいます。そして、どこか晴れやかな気持ちになり帰ります。お骨を守る場所は亡き人、自分にご縁がある方と会える場所、心の拠り所となる場所です。お骨を守る形が少し変わったとしても、この場を共に大切に、守っていくことは不変であってほしいと願います。お骨を守ることはあなたにとって、ご家族にとってどのような意味があるか考えてみましょう（住職）

● 東本願寺の案内に掲載されていた言葉 ●

死の彼方の世界こそ、
死せし母や子のまつ世界であり、
やがてわが身のかえる世界でもある。
それは、墓の前に掌をあわせる身に感じられて
ある世界であって、理知の分別によって
知られる世界ではない。

（『眞宗読本　正親含英文集1』昭和五十六年、法蔵館）

７月お盆のお知らせ

１０日（土）１１日（日）
１３日（火）１４日（水）
１５日（水）

12日はお参りに出るため
お休みします。

この期間はお寺を開放し
待機しておりますので
お墓・納骨堂の
お参りに、お越し下さい。
８時～２０時迄

今年も新型コロナウィルス
感染症予防のため、
密にならないように
多めに日数を確保しました。
工夫しながら実施します。
①換気の徹底　②除菌活動
③僧侶マスク着用
④休憩所　透明版設置

裏面もご覧下さい！

乗円寺からのお知らせ
9月4日（土）
死生観セミナー開催
講師：井上まゆみさん
住職インド旅行記

記事で紹介した歌
秋川雅史さん
「千の風になって」

CM動画の後に歌が流れます

発行所：乗円寺　金沢市石引１丁目4-20　TEL076-221-3421　Fax076-221-3449　E-mail:info@jouenji.net　印刷協力：川場印刷

ご要望、ご感想はお気軽にお問合せください。寺報、発送希望がございましたらお気軽に。 乗円寺 ホームページにも寺報原稿有！「乗円寺 金沢市」で検索！！

乗円寺からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症の流行で控えていた、お寺での集まりを少しずつ再開しようと思います。少し落ちつきが見えてきたこと、ワクチン接種が広がってきたことなどもあり、感染予防対策を十分に実施しながら、準備して参ります。

老僧とも生前に話していたことですが、門徒の皆さんと共にお寺を活用する場を少し増やしていきたいと考えています。そのために、平成三十年にお寺を改装いたしました。伝統的な行事に加え、少しリラックスした環境の中でも、お寺の場を活かし、お寺だからこそ活きる集いを皆さんと考え、創っていきたいと考えています。令和元年に実施した、お寺活性化委員会の皆さんが企画してくれた映画上映や、自分史ワークはそのひとつでした。コロナウイルスの影響で少しお休みしていますが、計画中の企画もありますので、徐々にスタートしていきます。お寺での活動を増やして学びながら、仏様との縁、故人との縁、地域との縁、新しい縁など、活動から生まれる御縁も築いていければいいなと思っています。

９月に私自身が聞いてみたい講師をお呼びすることにしました。本当は春のお彼岸に合わせてお呼びしたかったのですが、相応しい時期ではなかったので、中止しておりました。普段あまり考えることないテーマ。もしお時間が合いましたらご参加いただき、一緒に考え学んでいきましょう。

生きるということ　死ぬということに
目を向けたとき
いのちがどんどん輝き出す

講師　井上　まゆみさん

「死生観セミナー」

日　時　：９月４日（土）

１部 お話　１０時～１２時３０分(予定)　　無料

２部 ワーク１３時３０分～１５時(予定)　二千円

場　所　：乗円寺　　定員１５名（先着順）

どなたでもお気軽にご参加下さい！

参加希望の方はお電話・メールでご予約下さい。

０７６－２２１－３４２１

info@jouenji.net（乗円寺）

［講師★井上まゆみさん］看護師、看護教員、ベビーマッサージ教室の 立ち上げを経て、ドイツ発祥の自然医学 ホメオパシーを学び、 日本ホメオパシー医学協会認定ホメオパス ACH Post Graduate 認定ホメオパスとなる。

現在はホメオパシー療法を中心に 生きること、死ぬことに向き合う死生観セミナーなどを各地で行っている。

住職インド旅行記

インドはお墓を作ることが少ない国です。人口の多くはヒンドゥ教徒のため、人が亡くなると火葬し、遺骨は古くからガンジス河に流されてきました。聖なる河に流すことによって、苦しい輪廻を繰り返すことなく、悟りの境地に達すると考えられているからだそうです。ヒンドゥ教以外の宗教もあるので例外もあり、今は少し変わっている部分もあるようですが、そんな国を見たくて大学時代の最後にインドに行ったことがあります。

ひとりで行ったので、インド人にお金を求められたり、ガイドをさせてほしいと集団で囲まれたりしました。空港に降りた瞬間から本当に怖かったことを覚えています。いろんなところを巡りましたが、毎日そんな日が続いたので、インド人不審になりかけていました。

夜に道に迷ったことがあり、言葉も通じず、暗くなり本当に困っていました。すると、親身になって道を教えてくれた少年がいました。真っ暗で、牛がたくさんいる道で、どうしていいか分からない私を先導してくれ、ホテルまで連れていってくれました。（左の写真の少年）最初はお金がほしいのかなと思い、いざお金を渡そうとすると、「ＮＯ！」と断ってきました。何度渡しても、お金をもらおうとはしません。本当の善意で、困っている私を助けてくれたのです。そのように少年を見てしまっていたことを反省しました。次の日、奇跡的に会うことが出来ました。その子は、靴を磨く仕事をしていたので、スニーカーを磨いてもらい、お金を渡すことが出来ました。ガンジス河近くの出来事だったので、旅のいい思い出となりました。

ガンジス河近くのホテルで２泊ほどしました。火葬場を見学したり、そのすぐ近くの河で体を洗い、沐浴をする姿を見ました。生活のすべてに信仰とその河がありました。その姿は深く深く心に残っています。不思議とこの河の近くにいると声をかけられることが少なかったのを覚えています。

そんな国インドは今、コロナウイルスで多くの命が失われています。テレビの映像を見ながら、その原因のひとつに信仰とその河の影響もあったのではないかと思い、心が痛みます。早い収束を心から願うばかりです。インドは死ぬ前にもう一度行きたい国です。